２０２６年度

大阪医科薬科大学大学院　薬学研究科薬学専攻
博士課程（４年制）

一般・社会人・留学生
学　生　募　集　要　項

大阪医科薬科大学

大阪医科薬科大学大学院・薬学研究科薬学専攻博士課程

大学の理念

建学の精神及び学是（至誠仁術）に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人を育成する。

大学の目的

大学の理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた次の人材を育成することを目的とする。

1．人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材
2．変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材
3．地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材

大学院の目的

医学、薬学及び看護学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の発展に寄与することを目的とする。

博士課程の目的

臨床及び医療に密接に関連する薬学研究分野において、広い視野と高い専門性を備えて国民の健康の維持増進ならび に疾病の予防及び治療を担う優れた研究者・教育者・医療人となることができる人材を養成することを目的とする。

なお、同課程に設けるがんプロフェッショナル養成コースは、がん専門薬剤師等、がん医療分野の広範な知見と高度な技術を有する人材の養成を目的とする。

アドミッション・ポリシー

6 年制学部を基礎とする博士課程であり、大阪医科薬科大学の理念を理解し、本大学院薬学研究科薬学専攻博士課程の人材養成の目的に応えられ、柔軟な思考力と豊かな創造性を有する次のような学生を求めています。

1．薬学研究者としての広い視野と高い専門性を修得し、国民の健康の維持増進に寄与することに強い意欲を持つ者。
2．医療人としての優れた臨床的解析力・技能・倫理観を修得し、疾患の予防及び治療に寄与することに強い意欲を持つ者。

なお、社会的な要請を考慮し、薬剤師として3年以上の実務経験を有する旧4年制薬学卒業者及び国内外において修士の学位を授与された者も募集対象とします。

また、入学者は､｢外国語（英語)｣「記述問題（専門課題)」「面接」「発表・口頭試問」により評価・判定の上、選抜します。

カリキュラム・ポリシー

本大学院薬学研究科薬学専攻博士課程において、臨床・医療薬学領域における広い視野と専門性の高い研究能力の涵 養を行い、高度な知識と技能をもって国民の健康の維持増進、公衆衛生の向上並びに疾病の予防、治療等に資する優れた人材を養成するための教育研究を基本とします。そのため、

1．医療薬学、生物・予防薬学と創薬化学、臨床・医療の実践による薬学臨床、さらにこれらを有機的に連携させた トランスレーショナルリサーチと臨床からのフィードバックを取り入れた、総合的な臨床・医療薬学教育を行い ます。
2．科目を通じて、専門性の高い研究力、研究成果や情報の正確な伝達能力・説明能力を養成するとともに、臨床・ 医療の分野で求められる崇高な倫理観、使命感を涵養します。科目は講義、演習に分けて開講するとともに、特 別研究を配置します。
3．がんプロフェッショナル養成コースでは、がんに対する基礎と応用の高い研究能力を身に付けるため創薬・薬物治療研究や臨床研修を経験します。

上記のように編成した教育課程では各科目の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育、LMS（Learning Management System）などを活用した学修を実践します。

ディプロマ・ポリシー

薬学研究科薬学専攻博士課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、博士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、博士論文の審査、試験に合格し、博士課程を修了することです。授与する学位は「博士（薬学)」とし、 審査にあたり、

1．薬学研究に貢献できる十分な能力を有し、高度かつ広範で最新の知識、並びに高度かつ優れた技能・態度・倫理観・責任感等を身に付けていること。
2．優れた臨床的洞察力・観察力・解析力を持ち、臨床現場に精通していること。

を学位授与の基準とします。

大阪医科薬科大学大学院・薬学研究科薬学専攻博士課程（4年制）学生募集要項

1．募集人員　4名

2．募集専攻領域

専攻	専攻領域
薬学専攻	医療薬学　臨床薬学　生物・予防薬学　創薬化学

大学院設置基準第14条特例により、社会人学生には時間割上の配慮 ※1 を行います。また長期履修に関する規程 ※2 を設けています。

※1　夜間その他特定の時間帯又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる（本大学院学則）。平日夜間、土曜日に授業を行うことがあります。

※2　職業を有する方、育児又は介護等の事情を有する方は、計画的に1年又は2年大学院での在学年限を延長することができます。延長された期間の学費は免除されます。

3．出願資格（次の各号の一つに該当するもの）

1）大学の薬学（6年制）、医学、歯学又は獣医学を履修する課程を卒業した者又は2026年3月卒業見込みの者

2）修士の学位を有する者で、本大学院において薬学（６年制）課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもの。又は2026年3月修了見込みの者

3）外国において修士の学位に相当する学位を授与された者

4）文部科学大臣の指定した者

5）本大学院において、個別の入学資格検査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者

6）薬剤師資格を取得後、薬剤師の実務経験3年以上の経歴を有する者
実務経験が本大学院の定める基準を満たすかどうかについては、出願前に薬学学務部教務課で確認をとってください。

注）外国人留学生（日本国籍を有しない者のうち日本国の永住許可を取得していない者）のうち私費外国人留学生は、上記の出願資格を有し、入学後に「出入国管理及び難民認定法」による「留学」の在留資格を取得又は更新できることを条件とします。

4．出願期間及び方法

1）期　間： 2025年 8月25日（月）～ 9月 1日（月）

2）薬学学務部教務課へ持参する場合： 受付時間　平日 9時00分 ～ 16時30分

3）郵送の場合：簡易書留・速達郵便として、薬学学務部教務課に郵送してください。出願期間中の消印のあるもののみ受け付けます。また、封筒の表に「博士課程薬学専攻（4年制）願書在中」と朱書してください。

5．出願方法

入学志願者は、下記の書類に入学検定料20,000円を添え、出願期間中に本学に提出してください（本学卒業生は免除）。郵便で提出する場合、入学検定料は郵便為替証書（手数料志願者負担）を同封してください。また銀行振込の場合も手数料本人負担となります。

１）入学願書
本学所定の用紙を用い、出願前3か月以内に撮影した写真を1枚貼付したもの
２）卒業証明書 ※3 又は卒業見込証明書 ※3
出身大学において作成のうえ、厳封したもの
３）成績証明書 ※3
出身大学において作成のうえ、厳封したもの
４）志望理由書 ※3
本学所定の用紙に記入したもの、1,000字以内、又は英語250語以内
５）卒業研究の要旨
本学所定の用紙に記入したもの、500字程度、又は英語150語程度
６）返信用封筒（定形封筒・長形3号）
出願書類を郵送した場合のみ必要。受験票送付用として、宛名を明記し、410円切手（定形郵便料金110円、速達料金300円）を貼付したもの
７）出願資格６）に該当する者、又は社会人として企業や病院等に勤務し、新たな研究を行っている場合は、上記の５）に替え該当する研究要旨（400字詰原稿用紙５枚以内）
８）卒業研究、研究概要プレゼンテーション用データ
Microsoft Powerpointファイル等を（USBメモリ等に保存）は、試験当日午前10時までに薬学学務部教務課へ提出してください。
９）事前相談
入学を希望する研究室の責任者（指導教員）と事前に相談し了承を得てください。
10）受験許可書
社会人の場合は、所属長名で受験すること及び在職のまま修学することを承諾することを記した書面（様式任意）を提出してください。

※3 他大学出身者のみ提出

外国人留学生は、１）から９）までの項目に加え、以下のものを提出してください。
11）在留資格認定証明書又は住民票（在留資格及び在留期間が記載されたもの）、なお日本国外から出願の場合はパスポートの写し
12）身元保証書 ※4（保証人は日本在住の方とします）
13）健康診断書
14）推薦書
15）履歴書

※4 私費留学生のみ提出

６．選考方法
学力試験 ※5、面接及び提出書類により合格者を決定します。

※5 国費留学生の場合は学力試験を免除することがあります。

７．学力試験

１）期日：2025年 9月 8日（月）

２）場所：大阪医科薬科大学阿武山キャンパス（高槻市奈佐原4-20-1）

３）時間割

時 間	試験科目
10:00～12:00	外国語科目（英語）※6： 共通問題1題必須及び専攻4領域から2題選択
13:00～14:00	記述問題（専門課題）： 専攻4領域から1題選択 ※7
14:45～	発表・口頭試問　　： 卒業研究、研究概要プレゼンテーション用データに基づいて発表

発表・口頭試問の終了後に面接を実施します。時間割は変更することがあります。

※6　①辞書（電子、専門辞書を除く）の持ち込みは可能です。
②外国人留学生が、発表（プレゼンテーション）を英語で行う場合は、外国語科目を免除することがあります。

※7　記述問題（専門課題）は英語での出題及び解答が可能です。希望する場合は出願時に申し出てください。

８．合格者発表

2025年10月 6日（月）大阪医科薬科大学阿武山キャンパスにおいて発表し、また受験者には書面で合否を通知します。

９．入学手続

入学手続に関しての詳細は、合格者に別途通知します。この通知に記載した手続きを行った者に対して、入学を許可します。

入学手続締切日： 1次（入学金・書類）2025年12月12日（金）

入学手続締切日： 2次（前期授業料）　2026年 3月 9日（月）

10. 納付金

１）入学金： 100,000円（本学卒業生・修了生は免除）

２）授業料： 500,000円（年額）

その他、代理徴収金（薬学部PA会費）として18,000円（年額）を納入してください。

11. リサーチ・アシスタント（R.A）制度

本課程在学生は、希望によりリサーチ・アシスタント（R.A）に委嘱され、報酬を得ることができます。ただし長期履修適用者は除きます。

12. その他

１）一度提出した書類及び納付金は返却しません。

２）入学に際し虚偽の記載などの事実があった場合、入学許可を取り消すことがあります。

３）受験や修学にあたって特別な措置を希望する者は、事前に薬学学務部教務課に問い合わせてください。

４）志願者は必ず出願前に、志望する研究室の担当指導教員に研究内容等について相談してください。

＜入試に関する問い合わせ先＞
大阪医科薬科大学　薬学学務部教務課
〒569-1094　大阪府高槻市奈佐原4丁目20番1号
電話（072）690-1000（代表）
（072）690-1013（直通）
ホームページアドレス： https://www.ompu.ac.jp

募集研究室一覧

領域	（研究室）指導教員	研究内容
医療薬学領域	（病態分子薬理学究室） 教授　　大喜多 守 准教授　田和 正志	・エンドセリン及び一酸化窒素の病態生理学的役割に関する研究 ・急性腎障害や慢性腎臓病に対する薬効評価及びその作用機序に関する研究 ・可溶性グアニル酸シクラーゼを標的とした創薬に関する研究 ・各種循環器疾患に対する新規治療薬の開発研究 ・各種機能性食品の薬理学的研究
	（薬品作用解析学研究室） 准教授　清水 佐紀	・精神疾患（統合失調症、うつ病、不安障害など）の病態、薬理研究 ・神経疾患（パーキンソン病、てんかん、運動障害など）の病態、薬理研究 ・新たな神経疾患モデルの開発と治療薬探索研究 ・中枢神経作用薬の薬理研究
	（薬物治療学Ⅰ研究室） 教授　　加藤 隆児 准教授　幸田 祐佳	・重篤副作用（肝障害、肺障害、腎障害、心筋障害等）発症機構の解明と予測マーカーの探索 ・酸化ストレス関連疾患の病態解明と予防法に関する研究 ・在宅医療における薬物血中濃度モニタリング（TDM）の臨床的有用性に関する研究
	（薬物治療学Ⅱ研究室） 教授　　福森 亮雄	・認知症の病態解明と診断・治療への応用研究 ・自己免疫性脳炎の発症機構と診断・治療への応用研究 ・非天然アミノ酸の遺伝的導入による孤児受容体リガンドの網羅的同定 ・（社会人大学院生向け）電子カルテ・副作用データベースを活用した実臨床に資する薬剤情報の解析
	（生体分析学研究室） 教授　　小谷 明	・生体関連物質の電気化学センサの設計と開発 ・薬物および生体成分の高特異的かつ高感度定量分析法の開発に関する研究 ・PET・SPECT画像診断用放射性医薬品の開発に関する研究 ・がんの早期質的診断並びに治療効果判定に関する分子イメージング研究
	●（病態生化学研究室） 教授　　藤森 功	・脂質メディエーターとそれらの代謝物の機能と調節機構に関する研究 ・脂質メディエーターによる疾患制御の分子機構の解明 ・肥満制御の分子機構と新規抗肥満薬開発に関する研究 ・機能性化合物による疾患制御に関する研究
臨床薬学領域	（薬剤学研究室） 教授　　永井 純也 准教授　本橋 秀之	・病態時における薬物動態変動の分子機構解析とそれに基づく薬物投与法の至適化に関する研究 ・薬物動態制御分子を標的とした薬効増強および副作用低減に関する研究 ・間葉系幹細胞を利用した医薬品の有効性・安全性の向上と細胞医薬品としての有用性評価に関する研究 ・抗がん剤の体内動態特性と抗腫瘍効果・毒性発現との関連性に関する研究 ・生活習慣病における薬物療法の有効性・安全性の向上に資するための薬物動態研究
	（製剤設計学研究室） 教授　　戸塚 裕一	・難水溶性医薬品の溶解性と吸収性改善に関する研究 ・機能性添加剤を用いたナノ複合体形成とその応用に関する研究 ・機能性微粒子の開発に関する研究
	（社会薬学・薬局管理学研究室） 教授　　恩田 光子	・薬局の健康増進機能に関する研究 ・薬物療法や薬剤師業務に関するアウトカムリサーチ・医療経済学的評価 ・地域医療のシステムデザインに関する研究

前頁からの続き

領域	（研究室）指導教員	研究内容
臨床薬学領域	（臨床漢方薬学研究室） 教授　芝野 真喜雄	・滋陰生薬の老化細胞に対する抗炎症作用に関する研究 ・漢方生薬の修治・炮製の科学的解明に関する研究 ・漢方薬の副作用防止に関する研究
	（臨床薬学教育研究センター） 教授　岩永 一範 教授　中村 任 ★教授　中村 敏明 教授　矢野 良一 専門教授　角山 香織	・医薬品の消化管吸収に影響を与える要因に関する研究 ・癌化学療法の有効性と安全性に対するバイオマーカーの探索と臨床評価 ・循環器疾患薬物療法の有効性と安全性に対するバイオマーカーの探索と臨床評価 ・医薬品情報の評価および活用に関する研究 ・各種医療データベース解析に基づく医薬品適正使用に関する臨床薬学研究 ・臨床薬学教育の改善および教育効果の評価に関する研究
生物・予防薬学領域	（衛生化学研究室） 教授　奥平 桂一郎 ★准教授　佐久間 覚	・動脈硬化関連因子の機能と生理的意義に関する研究 ・がん治療を指向した製剤開発に関する研究 ・核酸による遺伝子発現制御機構に関する研究 ・生活習慣病を誘発する肥満の分子機構に関する研究 ・脳血管内皮細胞のtight junction の分子機構に関する研究 ・医薬品による環境汚染の動態に関する研究
	（感染制御学研究室） 教授　駒野 淳 ★准教授　宮本 勝城	・感染症に対する新たな治療戦略の開発研究 ・宿主-病原体相互作用の解析を通じた病原性発揮メカニズムの解明
	（生体機能解析学研究室） 教授　奥田 洋明	・慢性痛の発症機序の解明と新規治療法の開発 ・植物由来生理活性物質による抗炎症機序の解明 ・グリア細胞の機能的多様性の解明 ・細胞増殖阻害薬の作用メカニズムの解明と細胞の増殖・分化・死の機構解明
	●（薬品物理化学研究室） ★准教授　友尾 幸司 准教授　浅野 晶子	・タンパク質生合成開始因子の構造機能解析 ・アルツハイマー型認知症関連タンパク質tauの自己重合機構の解明と重合阻害分子の開発 ・放線菌におけるキシロオリゴ糖細胞内輸送機構の解明 ・病原微生物における鉄輸送機構の解明と新規抗菌薬の開発 ・ペプチドのコンホーメーションコントロールに関する研究 ・非天然型アミノ酸を用いた膜透過性ペプチドの開発
創薬化学領域	（機能分子創製化学研究室） 教授　藤井 晋也 准教授　和田 俊一	・元素多様化を基盤とした生物活性化合物の創製 ・官能基化された有機金属化合物の新規合成手法の開発 ・ビタミンやホルモンを基盤とした創薬化学研究 ・細胞内移送能を有するキャリアペプチドの開発 ・細胞膜透過性ペプチドの核酸医薬細胞内デリバリーツールとしての応用 ・がん細胞を可視化するペプチド性イメージング分子の開発 ・ミトコンドリア機能を改善する低分子医薬品の開発 ・ 新規生物活性化合物の設計と合成
	（医薬分子化学研究室） 教授　平野 智也 准教授　山田 剛司	・医療への応用を志向した光機能分子の開発 ・エピジェネティクス、エピトランスクリプトームを制御、解析する分子の開発 ・海洋生物由来菌類の産生する代謝物からの抗腫瘍性物質のシーズ探索研究 ・創薬を目的とした天然物の生理活性及び活性機構に関する研究 ・生体防御と抗老化作用を有する化合物の創薬研究

前頁からの続き

領域	（研究室）指導教員	研究内容
創薬化学領域	●（有機薬化学研究室） ★教授　　宇佐美 吉英 ●（生薬科学研究室） ★教授　　谷口 雅彦	・カルバシュガー型天然物及びその類縁体の合成と生理活性に関する研究 ・新規複素環化合物の合成研究 ・Vanin-1 阻害剤のデザインと合成 ・各種生薬成分の構造解析と生理活性に関する研究 ・サプリメントの有用性に関する研究 ・エピゲノム及びタンパク質間相互作用を制御する生薬成分の探索

志願者は、出願前に志望する研究室の責任者に研究内容等について相談しておくこと。
●を付した研究室は、薬科学専攻との兼担研究室として研究指導を受けることができる。
★を付した教員は、修了までに定年又は退職となる。